

VII. 資 料

1. 関係機関/訪問先記録及び面会者リスト
2. 収集資料一覧
3. 現地報道記事/関連記事

VII. 資料

1. 関係機関／訪問先記録

パラオ

1/14 (月)

高岡 JICA パラオ駐在員事務所長

パラオの現況、開発への取り組み等について説明があった。パラオは、人口の約19,000人のうち、約4,000人が外国人（準パラオ人）である。なかでもフィリピン人が圧倒的に多く3,000人を占めているが、現在は中国人、台湾人、ベトナム人も増えつつある。こうした準パラオ人が農業等に従事しており、パラオ人の人材が育たないのが現状である。レメンゲサウ大統領は、観光、水産、及び農業を開発重点分野としている。しかしながら、誰がどのように実施するのかは定まっていない。

長谷川パラオ臨時代理大使

冒頭、調査団から調査目的について説明したところ、長谷川大使から環境に優しい協力をしてもらいたいとの意向が示された。現在の状況として、マングローブ蟹の専門家派遣等の要請を本省に提出しているが実現していないこと、専門家受け入れについては、現地でカウンターパートとなる人材がないことが説明された。また、研修については、パラオでは学士号を取得している人が少ないため、研修コースの応募資格要件に合致する候補者がいないとの説明があった。これに対し、井上団員から、学士号を持っていない場合でも、適当な経験を有する候補者である場合は、その旨を明記いただければ選考対象とする旨、説明した。

国務省外務局

外務局は他国政府との窓口機関であるとともに、援助プログラムのモニタリングを担当している。面会の冒頭、外務局ディレクターから、日本の援助協力に対する謝辞が述べられた。日本の協力プログラムの良いところとして、ボランティアの派遣により技術が移転されることが挙げられた。主な他ドナーとして、オーストラリア、米国、シンガポール、米国、フランス、ドイツが挙げられ、20人程度がオーストラリアの奨学金留学生として学んでいることや、シンガポールでは役人を対象とした研修を実施していること等の説明があった。

1/15

パラオ国際サンゴ礁センター

マツタロー所長からセンターに対するこれまでの日本の協力内容について説明があったほか、今後の課題として水族館のよりよい維持管理およびセンター内のマングローブ植林・多様化が挙げられた。河西専門家からセンターの運営状況について説明があった。また、岡地専門家や担当職員の説明を聞きながら水族館や研究施設を見学した。センター内のマングローブに関し、馬場団員が適切水温等の助言を行った。

コシバ資源省大臣

コシバ大臣からエコシステムの重要性が述べられた。また、環境分野の問題として、一般の人々への啓蒙が不十分であること、また、環境保護の関係者がどのような手順で環境保護を推進すれば良いのかがわからないため足踏みの状態であることが挙げられた。これに対し、当調査団側から可能な範囲でアドバイス可能であることを述べたところ、急ぎ翌16日午前に環境分野の関係者との懇談会を開くことが同大臣から提案され、実施することとなった。

リデップ環境保護区担当官

環境保護区域に関する法律の制定等、環境保護に関する政府の取り組みについて説明があった。また、同保護区をモニタリングする人材が不足している状況について話があった。

1/16

環境分野関係者との懇談会

冒頭、参加者の自己紹介に続き、馬場団員によるプレゼンテーションが行われ、沿岸生態系保護の重要性や同取り組みに関する提言について説明があった。関係者から日本の支援について要望が挙げられ、PALALISからは、専門家派遣によるGIS作成により、サンゴ礁センターのみならずパラオ全体への裨益効果があることが述べられた。また、他の関係者からは、当該関係者が従事する分野におけるモニタリングへの支援要望があった。本懇談会の議長を務めたコシバ資源大臣から、今後の取り組みに関し、各関係者が各々のプロポーザルを持ち寄り、マツタロー国際サンゴ礁センター所長を中心にプロポーザルを取り纏めて一つのプロポーザルを作成することが提案された。参加者はこれに合意し、来年度実施される統一要望調査に間に合わせるべく作業に取り掛かることが確認された。

1/18

長谷川パラオ臨時代理大使への報告

冒頭、調査団から調査結果を報告した。同報告の中で環境教育の重要性について指摘したところ、長谷川大使から、教育については TV 使用が効果的と思料とのコメントがあった。パラオでは、環境に関する啓蒙のための TV 番組を放映しているとのことである。また、現在建設が計画されているコンパクトロードが環境に与える影響について当調査団が指摘したところ、長谷川大使から、降雨により海の色が変わるほどの土砂が流れ込んでいる模様との説明があった。

フィジー

1/21

村山フィジー大使表敬

冒頭、調査団から調査目的に関する説明およびパラオ調査結果を報告したところ、村山大使からサンゴ礁やマングローブ保全が大切であることは認識しているが、大洋州の現状を見た限りでは、こうした保全に関する現地の人々の関心が低いとのコメントがあった。同大使によれば、若い世代では研修等を通じてこうした保全に関する問題意識が浸透しつつあるが、政治レベルでは環境保全のためにお金を使っておらず、危機意識が弱いとのことである。また、保全に関する提言を受けて、フィジー政府が実践に移すとは考えにくいとのコメントがあった。

友部フィジー事務所長表敬

冒頭、調査団から調査目的に関する説明およびパラオ調査結果を報告したところ、友部所長から、トンガで実施した mariculture では環境教育の一環として紙芝居や、ぬりえを行ったものの、現地に根付かなかったとの説明があった。その理由として、頭で環境保全の重要性は理解されていても、肌で感じられる環境保全の利益が現地の人々に伝わらなかったことが挙げられた。環境教育の実施に際しては、子供と大人、コミュニティ全体を対象とした取り組みが必要であるが、大洋州においては、現在も酋長制が根強い地域も多いことから、酋長を対象として集中的に環境保全の重要性を訴えかけることが必要と述べた。また、域内の取り組みについては、域内機関（トンガの Mariculture センター、パラオ国際サンゴ礁センター、USP 等）とリンクさせてネットワークを作り、研究の拠点となる場所を有しつつ、関係国の持ち回りでセミナーを実施していくのが良

いのではとの意見が述べられた。

National Trust for Fiji

National Trust for Fiji は1970年に設立され、現在は、観光省の関連団体という位置付けになっている。当団体の役割は、フィジー国にとって保護（preserve）意義の高いもの（national heritage: サンゴ礁、森林、土地等）を保護することである。National Trust for Fiji は、現在、組織としての移行期間にあることから当面の課題として、今後5年間の中期計画の作成や資金調達が挙げられた。また、フィジー国内で実施された環境保護プロジェクトについて説明があった。

1/23

廃棄物処理場

約50年前に設置された Lami Dumpsite は、現在、20m 以上もの高さになっている。廃棄物に土をかぶせているが、廃棄物がそのまま積み重ねられている所も散見された。周辺住民から悪臭に関する苦情が出ているほか、廃棄物の Lami Dumpsite から海への流出、汚水による処理場周辺のマングローブへの悪影響等の問題が存在するとのことである。

1/24

Department of Lands and Surveys

マングローブ林は政府が所有しており、その伐採についてはライセンスの取得が必須される。現在、マングローブ所有権の土地所有者への移行等について検討が行われている。調査団から、土地所有者がマングローブを所有することで大規模な伐採に対する懸念はないのか質問したところ、こうした懸念も指摘されている一方、国土の83%を所有する土着の人々は自然とのハーモニーを重視しマングローブを必要以上に伐採してきていないことから問題無しとの見方もあるとの説明があった。また、マングローブ林の総面積に関する最近のデータが存在しないことについて尋ねたところ、現在のところマングローブの大規模な伐採は行われていないことから詳細調査は特に必要なしとの回答があった。しかしながら、環境教育による人々の啓蒙の重要性については指摘していた。また、JICA 研修に関し、管理者レベルを対象とした短期間（2~5日間）研修に関する希望が挙げられた。

Department of Forestry

ガラセ政権発足後の組織改編により、Ministry of Agriculture, Fisheries and Forestry から農業が切り離され、現在は Ministry of Fisheries and Forestry とされている。マングローブ林の総面積については安定しているとのことであるが、保全の重要性について指摘があった。面会者の Jiko 氏は、ITTO の national coordinator を務めていることから、マングローブ保全にかかる広域協力の必要性について尋ねたところ、域内会議の実施による意見交換が必要との回答があった。

Department of Fisheries

面会者の Tuiloa 氏は、日本で研修を受けた経験を持つ。サンゴ礁の保全に関する自然および人的要因による問題について説明があった。また、環境保護については、人々に規制をおしつけるのではなく、環境保全の重要性を理解してもらったうえで協力してもらうことが重要と考えており、Department of Environment 及び Department of Tourism の協力により、沿岸資源保全に関するコミュニティ・プログラムを月一回程度、全国規模で実施しているとのことである。

面会者リスト (パラオ)

1. JICA パラオ駐在員事務所 JICA/JOCV Palau Office
高岡 亨輔 事務所長 Mr. Takaoka,
Resident Representative of JICA
久保 さとみ 協力隊調整員 Ms. Satomi Kubo
2. 在パラオ日本大使館 Embassy of Japan in Palau
長谷川 恵一 臨時代理大使 Mr. Hasegawa ,Ambassador
3. 国務省 外務局 Bureau of Foreign Affairs, Min. of State
Mr. Issac N. Soaladaob, Director of Bureau
4. パラオ国際サンゴ礁センター
Palau International Coral Reef Center (PICRC)
Mr. Francis Matsutaro , Chief Executive Officer
河西 明 Mr. Kasai, JICA Expert
岡地 賢 Dr. Okaji JICA Expert
Ms. Lolita Penland (Ex-participant) C/P
Mr. O.Kambes Kesolei Chief, Aquarist
5. 資源開発省 Ministry of Resources and Development
Mr. Fritz Koshiha , Minister
Ms. Alma Ridep , Conservation Area Support Officer
6. Meeting at Ministry of Resources & Development (16/01/2002)
Mr. Fritz Koshiha , Minister
Mr. Theo Isamu , Chief ,Bureau of Marine Resources
Mr. Francis Matsutaro , Chief Executive Officer ,PICRC
Mr. David Hiachley, Senior Conservation Advisor, The Nature Conservancy
Mr. Anderen Swith, Director, Pacific Coordinative Region and Palau
Southern Region Manage
Mr. Jason Kunitrtei, Marine Conservation Officer, Marine Conservation
Officer, Palaun Conservation Society
Mr. Obichang Orail, PMDC Manager, Bureau of Marine Resources
Ms. Pua Micheal, Officer, Bureau of Agriculture
Mr. Marcelro Brel , Forester, Bureau of Agriculture
Mr. Peter Ma , GIS Analyst, Bureau of Land & Survey
Mr. Willium Burmeister , Director, Bureau of Land & Survey
Mr. Joel Mils ,Teacher ,Palau Community College
Mr. Herman Francisco, Director ,Bureau of Natural Resourse Development

7. 公開技術セミナー参加者 (パラオ)

No.	Name	Organization	Post Title
1	Guy Ragosta	Peace Corps/Pohnpei Marine Department	
2	John Bungitak	Environmental Protection Authority	
3	Tetaake Yeeting	College of Micronesia, FSM	
4	Donald David	Marine Development Pohnpei State Government Federated States of Micronesia	Chief
5	Graucis Itniai	Department of Economic Affairs National Government Fisheries Unit	
6	Simpson Abraham	Kosrae Island Resource Management Program	
7	Andrew Tafileichig	Yap State Marine Resources & Management FSM	Chief
8	Ethan Daniels	National Science Coordinator Office of Environmental Response & Coordination	
9	John Starmer	Coastal Resources Management Program	Coral Reef Monitoring Biologist
10	Adalbert Eledui	Koror State Conservation & Low Enforcement Department	
11	Alma Ridep-Morris	Bureau of Marine Resources Ministry of R & D	
12	Robert Richmond	Marine Lab UOG	Professor of Marine Biology
13	Tony Beeching	Department of Marine and Wildlife Resources	Inshore Ecology Project Leader
14	Helaina Vaitautolu	Dept. of Marine & Wildlife Resources	
15	Patricia Drins	GCRMN / PICRC	
16	Clatene Mersai	Koror State Dept. of Conservation & Low Enforcement	
17			
18			

面会者リスト（フィジー）

3. 在フィジー日本大使館 Embassy of Japan in Fiji
村山 比佐斗 特命全権大使 Mr. Murayama , Ambassador
岡本 洋秋 一等書記官 Mr. Okamoto, First Secretary
4. JICA フィジー事務所 JICA Fiji Office
友部 秀器 事務所長 Mr.Tomobe,
Resident Representative of JICA
遠山 峰司 事務所員 Mr.Toyama,
Assiatant Resident Representative of JICA
中谷 誠治 専門家（トンガ） Mr.Nakaya (JICA Expert, Tonga)
3. 国土測量省 Ministry of Land & Survey
Mr. Brama Nand, Director of Lands & Surveyor General
Mr. Kemueli Masikwrei , Assistant Director of Mapping & Land Information
Mr.BaBu Lal, Atg Assistant Director of Lands & Surveyor General
Mr.Mohammd Jaffer , Consultant
Mr.Pumale Reddy, Senior Surveyor (Foreshores) ,(Ex-Participants)
Mr.Senibulu Mesake, Senior Surveyor (Ex-Participants)
4. ナショナルトラスト（フィジー） National Trust for Fiji
Ms. Elizabeth Erasito, Director
Ms. Archna Deo , GLOMIS Officer
Ms. Avisaki Ravuvu, GLOMIS Officer
5. 水産・森林省（森林局） Ministry for Fisheries & Forests, Forestry Development
Mr. Laikini JIKO , Conservator of Forests
6. 水産・森林省（水産局） Ministry for Fisheries & Forests, Forestry Development
Mr. Malakai TUIROA , Director
Ms.Vasiti Vuiyasowa, Officer in charge of coral reefs
7. 南太平洋大学 The University of the South Pacific (USP)
Dr. Robin South, Professor
Dr. Cameron H. Hay , Director of Institute of Marine Resources
Mr. Samasdni Sauni, Mr. Posa Skelton, Mr.Joeli Veitayaki
8. OISCA
山田 雅則 フィジープロジェクト代表 Mr. Yamada , Director

9.公開技術セミナー参加者（フイジー）

No.	Name	Organization	Post Title
1	Mr. Lepani Kolinisau	Environmental Science, Fiji Institute of Technology	Senior Lecturer
2	Mr. Pumale Reddy	Lands Department	Director
3	Mr. Hideyuki Tanaka	F.A.I.	JICA Expert
4	Mr. Eiichi Tamaki	Ministry of Tourism	Divisional Surveyor - Lands Dept.
5	Mr. Mesake Senibulu	Lands Department	
6	Mr. Jovesa Korovulavula	Fisheries Division	
7	Professor Robin South	University Of The South Pacific	Director
8	Posa Skelton	University Of The South Pacific	Assistant Coordinator Coral Reef-SW
9	Flimone Toga	Ministry of Information	AIO
10	Filipe Cula	Ministry of Information	AIO
11	Ms. Asenaca Ravuvu	United Nations Development Programme (UNDP)	Programme Analyst
12	Ms. Helen Sykes	Resort Support	Managing Director
13	Ed Lacle	Biological Consultant	
14	Mr. Manasa Sovaki	Department of Environment	Principal Environment Officer
15	Mr. Andrew Sinlay	Green Force	Marine Scientist
16	Ms. Archana Arti N.	Live and Learn Environmental Education	Field Officer
17	Archana Deo	National Trust of Fiji	Gromis Project Assistant
18	Ms. Avisaki Ravuvu	National Trust of Fiji	Director
19	Hen Loon Nong	Mineral Resources Dept.	Geologist
20	Chris Yvava	Lands Department	
21	K. Meek		
22	Ms. Nirupa Ram	Department of Environment	ODS Oficer
23	Mr. Alipate Mataini	South Pacific Action Change For Human (SPACHEE)	Chairperson
24	Mr. Kanawi Pouru	Secretariat of the Pacific Community (SPC)	Forest and Trees Advisor
25	Kalavefi Befilerga	Foreid of the Corp Coarf	President

No.	Name	Organization	Post Title
26	Ms. Christine Carberry	ASAT	Financial manager
27	Mr. Austin Bowden kirby	Fundation For The Peoples Of The South Pacific	Project Scientist
28	Mr. Nacanieli Kofoiwasawa	Director, Health Services	Suva City Council
29	Mr. Gerald Billings	Foundation for the Peoples of the South Pacific	Project Manager
30	Mr. Masanori Yamada	OISCA	Director
31	Isikeli Tamari	OISCA	
32	Haruka Okada	OISCA	
33	Mr. Timothy Young	Ministry of Health	
34	Mrs. Eva Lewenikuruwai	Department of Environment	Coordinator, Climate Change Unit
35	Jackie Low	Department of Environment	ODS
36	Mrs. Sisilia Gravelle	South Pacific Applied Geoscience Commission (SOPAC)	Programme Assistant
37	Mrs. Batiri Thaman	University Of The South Pacific, Institute of Applied Science	Scientific Officer
38	Dr. Joeli Veitayaki	University Of The South Pacific	Assistant Director
39	Vili Koyamenifole	Ministry of Forein	
40	Ms. Kesaia Tabukanakawai	World Wide Fund For Nature (WWF)	
41	Ms. Liz Wilson	World Wide Fund For Nature (WWF)	Marine Coordinator
42	Mr. Laikini Jiko	Department of Forestry	Conservator of Forests
43	John Kanea	Fiji Sun	Journalist
44	Clalolle Peles	"	"
45	Joa Bola	"	"
46	Ms. Bimla Khan	JICA	Programme Officer
47	Mosese Tamate	"	
48	Jone Lwveoroega	The Daily Post	Photographer
49	Tomoki Suzuki	JOCV	
50	Vasemaca Rarabia	Fiji Times	Reporter

2. 収集資料一覧

パラオ

1. パラオ水族館-パラオ国際サンゴ礁センター
2. PICRC (Palau International Coral Reef Center) Research Department
3. Community –Based Fisheries Management Program
4. The 1991-1992 Rapid Ecological Assessment of Palau’s Coral Reefs
5. Executive Order No.205
– Establishing the National Environmental Protection Council
6. Republic of Palau Organization of the Executive Branch
7. MAREPAC Conference (Jan 14-28)
“Palau’s Rock Islands Management Concept”
8. Fact Sheet : Koror State Conservation Areas
9. Sedimentation Patterns on the Coral Reefs of Palau
10. Status of the Coral Reefs of Palau
11. Environmental Impact Statement for Construction of the Palau Compact Road
Babeldaob Island, Republic of Palau
12. Report on Tourism Development for the Communities Ngaremeduu
Conservation Area (Palau)
13. Ecotourism Development Strategy for Ngaremeduu Conservation Area – Palau
14. Assessment of Current Monitoring Programs in Palau
15. Nutrient Flux through Soils and Aquifers to the Coastal Zone of Guam
16. Meeting of the Marine Resources Pacific Consortium

フィジー

1. The Fiji Mangrove Management Committee
2. It Is the Policy of the Government of Fiji
– Extracted from the Legislative Council paper No.5 of 1950
3. Coral Harvesting Guideline (Policy) Set by the Fisheries Division

3. 現地報道記事

"The Daily Posto" (Fiji) Jan.23.2002



Coral reef is faces changes ...Tongan delegates Mosese Mateaki (left) and Fe'auni Vi at the USP Marine studies programme on Monday.

Coral reef study is important: Murayama

PARTICIPANTS of the Sustainable Use of Coral Reef Fisheries Resources course heard that the study of coral reefs and its resources has become a highly specialised and important field now that environmental and climatic factors are causing constant changes.

The course was officially opened Monday with the Japanese Ambassador Mr Hisato Murayama as chief guest.

The course is about four weeks with the University of the South Pacific (USP) phase from January 21-

January 25 and the Tongan phase from January 28-February 15.

Mr Murayama said the study of coral reefs and its resources ensures their sustainability and that they are maintained for the well being of the marine environment of any country or region.

"The study of coral reefs and its resources is important for the region given that the countries are made up of islands surrounded by the sea with the sea resources are part of the communities' diet and the importance given to the fisheries industry for the

development of the island nation's economies," Mr Murayama said.

He also said that in 1996 Japan, through its Official Development Assistance programme to the South Pacific Region, contributed funding and technical expertise for the construction of the USP Marine Studies facilities. This is because it recognises the importance of the marine environment in the South Pacific Region.

As a follow-up to such development in modern infrastructure, Japan, through its Technical Cooperation

programme implemented by the Japan International Cooperation Agency (JICA), funded this three-year training course which began in 1999.

However this is the final year of the third-year Country-training programme on sustainable use of coral reef fisheries with special emphasis on shellfish production and release.

The Ministry of Fisheries, Tonga conducts the course with the support of JICA and the Institute of Marine Studies Programme of USP.

"The Fiji Times" Jan.30.2002

Marine life in danger

NGOs hailed for awareness work

By YASEMACA RARABICI

Fiji's fragile marine ecosystem is slowly diminishing and unless the Government does something about it soon the future generation could be left with nothing.

And because there was no allocation in the 2002 Budget to protect and conserve Fiji's coastal areas, especially coral reefs and mangroves, non government organisations are racing against time.

Speaking at a seminar on the conservation of ecosystem in the coastal areas last week, Principal Environment Officer Manasa Sovaki said non government organisations should be commended for creating awareness on the importance of the marine environment.

"The Government is unfortunately lacking in resources, manpower, finance or the lack of everything to create awareness and help the community to protect the environment," Mr Sovaki said.

"Therefore we should salute non government organisations for doing the work that the Government is supposed to be doing.

"In this day and age more education and awareness concepts are needed to protect our shores."

Organised by the Japan International Co-operation Agency (JICA), the purpose of the seminar was to exchange information on conservation and management of coastal ecosystem among the authorities concerned in Japan and Fiji. Mr Sovaki said there was a lot of planning within the environment department and ministry concerned but nothing had been achieved because of a lack of commitment towards such an important issue.

Mr Sovaki said it was sad to note that less than two per cent of Fiji's ecosystem in coastal areas had been gazetted and protected.

"This indicates the lack of commitment that the Government has in saving and conserving our environment," he said.

"It's about time the Government produced a national environment strategy that would save the country from losing its shores, its reefs and its beauty."

He said a Sustainable Development Bill was tabled in Parliament in 1996 but had not been enacted.

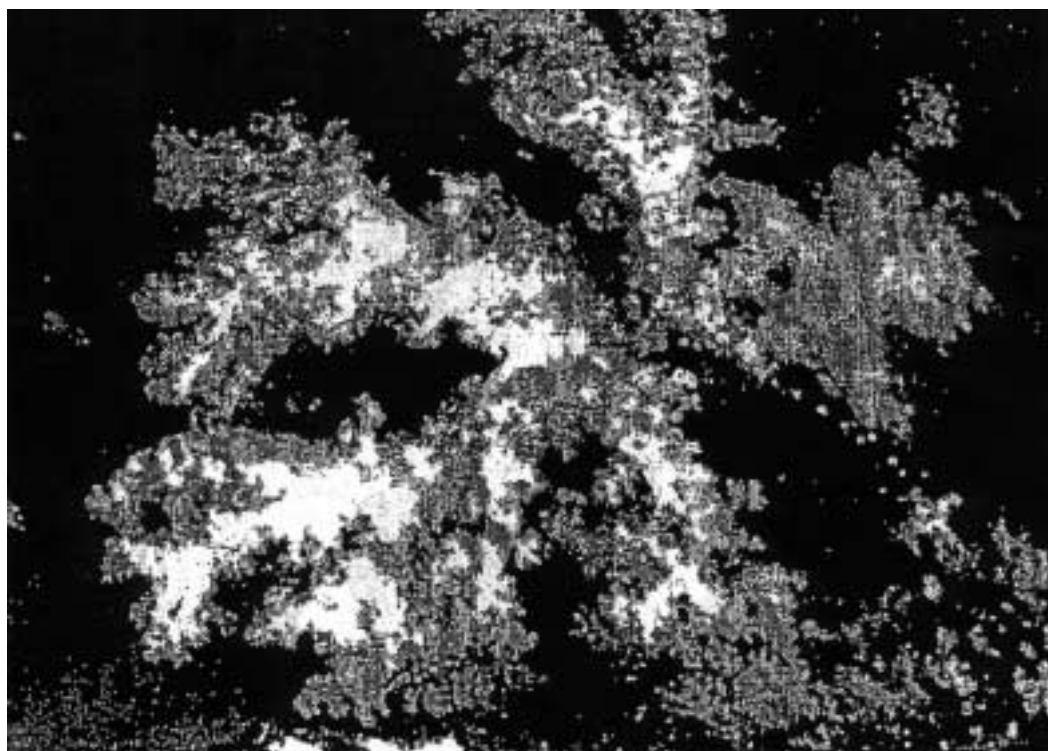
And though the Environment Ministry tried to come up with a smaller version of the bill, the Government still could not enact it.

"We want a bill to go through because only a bill will protect our ecosystem," Mr Sovaki said.

"Something needs to be done soon before its too late."

He said the Environment Ministry was grateful to JICA for their ongoing training and seminar on marine life and environment conservation.

He pleaded with JICA to continue the good work and hoped the Government would see the importance of such a worthwhile investment.



Fragile state ... lack of finance has left Fiji's marine ecosystem in peril



PACIFIC DIRECT LINE

1 Totua Street, Wailu Bay, PO Box 327, Suva, Fiji Phone: (679) 306 241/2 Fax: (679) 306 245 Email: pdl@is.com.fj

"The Fiji Times" Jan.23.2002

No money to protect environment

THERE are no funds available for the Government to protect and conserve Fiji's environment and ecosystem.

And non-government organisations should be commended for creating awareness on the importance of the environment and what sustainable development means for the country, said Principal Environment Officer Manasa Sovaki yesterday.

Speaking at a seminar sponsored by the Japan International Co-operation Agency, JICA, on conservation of eco-system in coastal areas in Suva yesterday, he said: "The Government is unfortunately lacking in resources, manpower, finance or the lack of everything to create awareness and help the community to protect the environment," Mr Sovaki said.

"Therefore we should salute non-government organisations for doing the work that the Government is supposed to be doing."

"SUN" (Fiji) Jan.23.2002

Change environment laws, says official

PARTICIPANTS at a Japanese International Cooperation Agency seminar yesterday heard the need for better and effective environmental legislation.

The seminar held at the Holiday Inn in Suva heard that Fiji's laws on the environment were outdated and needed strengthening.

A Government official told participants that the Sustainable Development Bill, yet to be passed by Parliament, hoped to address regulatory inefficiencies.

"We want to see this Bill go through. It is only the Sustainable Development Bill, at this stage, that will protect the environment," the official said.

The official said that members of the community, especially resource owners had a big role to play in protecting natural resources.

"We have to protect not only in terms of food resources but what visitors to our shores want. That is an aspect Government is currently looking at."

The official pointed out that education awareness was important in disseminating information on why coral reefs need protection.

Another participant Gerald Billings emphasised the need to have coral reef sanctuaries to protect the marine environment and its ecosystem.

He spoke on coral gardens established in Cuvu in Nadroga, Makogai Island and Verata in Tailevu.

Mr Billings said members of the community needed to actively participate in initiatives that would ultimately safeguard the marine resources at their disposal.

University of the South Pacific academic, Professor Robin South, spoke on Reef Conservation.

The seminar heard that while Government badly needed to address environmental issues it lacked the technical expertise and finance to do so.

JICA has held two training courses in the past five years for overseas trainees at Japan's Okinawa International Centre to develop human resources in the field of conservation and management of coastal areas.

The topic of yesterday's seminar was "Conservation of Ecosystems in Coastal Areas".

関連新聞記事

<サンゴ礁> **海洋生物の多様性が危機に**

【パリ 2002年2月14日 ロイター】 森林伐採や農業、温暖化などにより、世界のサンゴ礁が破壊され、海洋生物の多様性が損なわれる危険にさらされている、とする国際研究チームの論文が、15日発行の米科学誌サイエンスに掲載された。同論文は、巻き貝やエンゼルフィッシュなど希少種が絶滅すれば、サンゴ礁の自然の美しさだけでなく、薬品開発における大きな可能性も損なうことになる、と警告している。

論文を共同執筆した海洋生物学者のカラム・ロバーツ氏は、「海洋生物が絶滅の危機にさらされていると考えることには、反発がある」とした上で、「多種の海洋生物の生息地が小規模な島々に限られており、絶滅への影響も特定地域に集中していることが研究から分かった」と指摘した。

同チームの研究報告は、フィリピンからカリブ海まで世界10カ所について、捕獲や汚染、気候変動などによる危険に最もさらされている、として、早急に保全策を取るよう訴えている。

同チームは、魚やサンゴ、巻き貝、ロブスターなどサンゴ礁海域に生息する3000種以上の海洋生物に関する調査を行った。（ロイター）

<サンゴ礁> **沖縄がワースト7位にランク 米英の研究グループ**

【ワシントン斗ヶ沢秀俊】 人間活動や温暖化の影響でサンゴ礁に生息する生物が危機に直面している現状を米英の研究グループがまとめ、15日発行の米科学誌「サイエンス」に発表した。「危機的なサンゴ礁トップ10」には、沖縄周辺のサンゴ礁も含まれている。

発表したのは英ヨーク大や米環境団体「コンサーベーション・インターナショナル」などのグループ。世界18カ所のサンゴ礁を対象に過去の調査結果を解析し、魚類、サンゴ、ウミヘビ、ロブスターなど3235種類の生息状況と、絶滅の危機の程度を数値化した。

危険度の高いサンゴ礁はフィリピン沿岸、アフリカのギニア湾、インドネシア沿岸の順で、沖縄周辺は第7位に挙げられた。沖縄周辺のサンゴ礁には、そこにしか生息していない固有種が75種もあり、18カ所中で最も多かった。研究グループは「早急に保護しなければ多くの生物種が絶滅し、生物種の多様性が失われる」と訴えている。（2002年2月15日 毎日新聞）

沖縄のサンゴ礁は世界最多の希少種生

世界中のサンゴ礁の中で、奄美諸島から沖縄、台湾に至る日本の南部海域が、希少な生物が最も数多く生息していることが、米英豪加の国際チームの調査でわかった。研究チームでは、この地域を含む世界の10か所を生物多様性に富んだ“ホットスポット”に分類、積極的な生態系の保護を図るべきだと訴えている。15日付の米科学誌「サイエンス」に掲載される。調査をまとめたのは、米ハーバード大、英ヨーク大などの研究チーム。魚類1,700種、サンゴ804種、巻き貝662種、ウミザリガニ（ロブスター）69種の計3,235種類について、分布を分析した。

その結果、最も多くの種が生息していたのは1,488種が確認されたフィリピン近海で、インドネシア南部（1,443種）、沖縄周辺（1,262種）が続いた。しかし、限られた区域の中にしか生息しない希少種を数えたところ、沖縄周辺が75種で世界第一位。続いてオーストラリア西部が56種、アフリカ西部のギニア湾周辺が45種となった。

同チームは、優先的に保護すべきサンゴ礁10か所を選定したが、これには沖縄周辺やフィリピン近海のほか、西カリブ海、紅海などが含まれている。保全海域の合計面積は、地球の全海洋の約0.01－0.02%を占めるだけだが、希少生物種の34%が、この10か所に集中して生息していることもわかった。研究チームでは、「サンゴ礁の破壊は、森林伐採や農業の拡大など陸地の過度な開発によっても引き起こされる。陸と海を総合的に見た広い視野で、早急に保護活動を行うべきだ」としている。

【読売新聞 02/02/15】